



笑顔あふれるまちづくり

いいぬま雅子

品川区議会議員区政報告

NO. 365. 2011. 8. 28.

核兵器も原発もない世界を

ノーモア ヒバクシャ

原水爆禁止2011世界大会in長崎

7日：開会総会 8日：被爆遺構めぐり、女性のつどい
9日：浦上天主堂、出島、閉会総会

開会総会

東京の参加者は715名。長崎市民会館・文化ホールには、25カ国87名の海外代表も含め7800名が集い発言しました。最も印象的だったのが、被団協代表委員谷口氏です。原爆投下後10年間、原爆被害を封じ込めようとするとアメリカや日本政府の下では治療すら受けられなかった事

実を告発。第一回世界大会の開催が、被爆者が立ち上がるきっかけとなりました。「被爆者はくじけません」と力を込めました。一方核兵器廃絶への行動開始を宣言しながら核実験を繰り返すアメリカを批判、国の責任を認めようとする日本政府への怒りをあらわにしました。66年前、背中大やけどを負いうつ伏せに寝かされ写真をとられた少年が谷口氏です。背



原爆中心碑

碑の上空500mで原子爆弾が炸裂。付近の地表温度は3000~4000℃。爆風は中心で秒速440m、1㎡当たり6.7~10tもの超強烈衝撃波。ガンマー線や中性子線など放射線は、鉄板やコンクリート壁も透過し、細胞への破壊は、66年後の現在も、被爆者を後遺症で苦しめている。



折り鶴たくさんありがとうございました。

10年ぶりの長崎世界大会に参加。福島原発事故後の大会です。「核兵器全面禁止のアピール」を広げ、運動の大波をつくること。今こそ、核兵器も戦争もない、そして放射線被害のない平和な世界を創ろうと決意を固めました。



中には石のような塊がいくつもでき後遺症に悩まされながら運動を続ける人間が目の前にいました。その他の発言は、セルジオ・ドゥアルテ国連軍縮問題担当上級代表、田上富久長崎市長、ベネズエラ大使、志位和夫日本共産党委員長、平和運動団体代表、平和行進参加者多数。 私はこの大会が世界を動かしていると感じました。

動く分科会 被爆遺構めぐり

600名が各コースに分かれ私は民医連副会長の案内で、非核非戦の碑と救護活動が行われた新興善小学校跡を回りました。最後に被爆者のお話を聞かせていただきました。

親子ずれと若い人が多い分科会でした。感想文を書くために静かな時間がしばらく続きました。つらい体験を伝えてくださって感謝です。

原爆資料館にも行きました。が、全ての人に一度は見学をし、歴史の事実を受け止めてほしいと思いました。

閉会総会

青森「大間

の原発は大間
違い」、岩手、
宮城、福島「死
者を甲うこと



被爆者の証言

76歳の大塚さんは、9日が近づくと気が滅入る。話したくない。しかし若い方に話してくれと言われ、ようやく語ることがになった。

一緒に蟬取りをしていた10歳の友人は吹き飛ばされ二度と会えない。

原爆と知らされず、医者は薬もなく無力、海水を沸かしたものにリバノールを入れ、ジョウロで体につけウジをとるのが精一杯だった。子どもたちも死体を運び、骨拾いをした。何も感じなかったが、トラックで運ばれていくのを見て「人間ゴミじゃないぞ」はっとした。

その後家族の死、被爆二世の甥の死などなど、思い出しているのではない、忘れられない。9日即死を免れた人は被爆の始まり。自分の体験と福島が重なる。原発をなくす大きな力を集めましょう。福島だって長崎のように復興する。



もできず故郷を後に、2次3次と避難所を変わる地獄、茨城と被災地の発言、子どもたちを被爆から守りたいと子連れで集まった新婦人などお母さんたち。核兵器も原発もいらぬ。事故の終息とすべての賠償、自然エネルギーへの転換を訴えました。最後に「長崎からのよびかけ」：「核兵器全面禁止のアピール」国際署名の運動で、巨大な大波をつくりだすこと、「原発からの撤退」を求める運動との連帯を…が採択されました。

日本共産党区議団を代表して参加しましたが、区民のみなさんと核兵器も原発もない世界つくるため、地元か

原発いらぬパレードにご参加を

9月18日(日)

午後12時集合 15分出発

戸越公園集合

コースは戸越銀座周辺を予定

品川パレード実行委員会

連絡先：3787-5188

9月の法律相談は未定ですが、お急ぎの方は、ご連絡ください。弁護士につなげます。

